

学校関係者評価

令和4年3月1日
船橋市立葛飾中学校

本校の指導部は、学習指導部、生徒指導部、道徳指導部、特別活動指導部及び管理部、研究推進委員会の6部会から構成されていたが、GIGAスクール構想における一人一台端末の利用や令和4年度の国際理解教育の公開に向けて新たに2つの部会を設置した。GIGAスクール研究部と公開研究部（研究推進委員会から独立させた）7部会として会議の効率化等を図った。

それぞれ学校評価結果をもとに振り返りを行い、次年度に向けた具体案について検討をした。
また、学校評議員の意見や感想も参考に次年度に繋げ、「よりよい学校」を目指したい。

1 学習について

＜令和3年度学校評価の結果から＞

コロナ禍での授業に関する対応が多く求められた。出席停止となった場合の対応やテストが受けられない場合の対応等、eラーニングやテストの後日受験等を周知していく必要があると考える。

学習指導要領が変わり、成績の観点が変わったことに伴い、明確な評価基準を生徒と共有し、指導に当たるようにしたい。そのために、教科部会で精査された基準をきめていけるようにしたい。また、単元毎の小テスト等を取り入れ、評価に入れることにより、定期テストに重点をおいた評価にならないような工夫をしていきたい。

学校規模が大きい為生徒の学力差も大きくあるが、個人の学習習慣の確立のための一助としての自学ノート等の取り組みを学年の状況に応じ取り入れていきたい。

＜来年度へ向けての改善点等＞

8月の部活動停止期間や、9月のコロナ禍による時差登校、午前日課もあり、学業に対する不安が多く出た。また、葛の葉サポーターの積極的な活用が利用できなかったため、外部との連携を考え、授業を計画していきたい。

学年独自の動きが多くなる中でも、委員会の動きを統一させ挨拶キャンペーン等の学校の一つの団体として挨拶キャンペーン等の活動を行った。生徒数、教員数も多く、職員室が分かれている等統一の動きを図ることが難しい中でも、学年を超えて連絡を密にし、活動を行っていきたい。

コロナ禍の中で生徒が主体的に活動できる場面の設定や工夫を教科指導でどのように取り入れていくか、今後も教科部会で内容を精査し、検討していく必要がある。まずは教科部会の時間を確保したい。

テスト範囲や月ごとの授業進度等をホームページで周知し、保護者も含め全体での学習の共通理解をしていきたい。

2 生活指導について

多様化の時代と言われ、学校内でもいじめの問題、不登校問題、LGBT の対応、校則の問題さらにコロナ感染症対策など教科指導以外にも様々な事に対応していかなければならなくなっている。様々な社会の変化に教員が対応できていないと感じている。様々な問題にスピード感をもって対応しなくてはならない。また、生徒一人一人に合った対応を考えなければならない。

生徒に社会性を身に着けさせるために社会に通用する校則やモラルを考え、学校生活を通して力を入れていく。

＜令和3年度学校評価の結果から＞

生徒指導全般、報告・連絡・相談そして指示をスピード感をもって実践してきたことで、関係機関との連携や担任・学年間の情報共有がスムーズに行え保護者や生徒にもプラスの影響が多くあった。

＜来年度へ向けての改善点等＞

コロナ感染拡大で様々なことが中止になったり規制されたりしている中で生徒たちの身体的・精神的な健康が妨げられているように思う。そんな中でも生徒たちは一生懸命に取り組んでいる。先輩から様々なことを学べなかった生徒が多くいる中で、目標や意欲を持たせて活動させていくことが必要不可欠になる。

- ・規律ある学校生活を確立するため、現在の生徒の状況を全職員が共通理解し、同じ意識とスタンスで、連携して粘り強く指導・声かけをしていく必要がある。生徒指導部の職員だけではなく、全職員で取り組んでいくことが重要である。
- ・社会性を身に着けさせるために学校におけるルールの改善やマナーの向上を心がけていかなければならない。
- ・生徒会を中心にいじめ防止活動を推進していきたい。いじめへの未然防止・早期発見・早期対応の重要性は今後も訴えていく必要がある。
- ・教育相談期間のみならず、授業時や業間等あらゆる機会を捉えて生徒と関わり、悩みの解決や問題行動の早期発見に努めた。
- ・スクールカウンセラー・養護教諭との連携を密にし、指導に必要な情報を交換することにより生徒の心の悩みを理解するように努めた。
- ・スクールカウンセラーの面談では、生徒だけではなく保護者との面談も実施し、家庭の状況等にも意識を向けるよう努めた。
- ・教育相談の際は、内容の充実・実態の把握を図るとともに希望があれば担任以外の教師との相談も行った。
- ・必要に応じ不登校や問題行動に関わる生徒の家庭を訪問し、生徒や保護者に対する指導・支援を行った。
- ・いじめアンケートを実施し、生徒理解に努めるとともに実態の早期発見・早期解決の手がかりとした。
- ・アンケート等によって発覚した問題について、本来はアンケート実施前に把握できることが望ましい。その点を全教員と共有しなくてはいけない。

3 道徳指導について

<令和3年度学校評価の結果から>

- ・ローテーション道徳により、よりよい授業作りができています。
- ・ローテーション授業はみんなで話し合っただけで教材研究ができていて良いと思う
→好評につき、来年度も継続して実施する予定です。
- ・LGBT や命について等、状況に応じた題材を工夫していたと思う。
→基本的に教科書を使っただけの授業が推進されていますが、教科書以外の題材も広く扱ってほしいと思っています。ご協力をお願いします。
- ・学年で出している予定表と違う題材を扱っている人がいる。その人が価値項目を全て履修しているか心配である。
→こちらが予定した題材を必ずしも使用せずとも良いです。ただ、価値項目は変更しないでください。
- ・食べものを大切に、という取り組みを道徳でもできないか
→検討します。総合でもSDGsに関連してできるかと思います。

<来年度へ向けての改善点等>

本年度は12月の人権週間を踏まえて、LGBTや人種について考えさせる題材を全学年で行った。性的マイノリティは10人に1人といわれている。性的マイノリティの人々に対する差別や偏見をなくす取り組みを通して、個性を尊重する態度を身につけさせることをねらいとした。来年度も同様な取り組みができるようにしたい。

4 特別活動について

<令和3年度学校評価の結果から>

- ・特別活動指導部が以前に比べて機能していない。委員会や学級優先日を活用して、生徒主体の活動を増やす必要がある。
- ・生徒が主体的に活動できる場面や時間が少なくなっている。
→学校行事が開催されず、生徒を動かす場面が少なくなっているのは仕方ない部分があるが、できることを模索しながら企画運営していきたい。
- ・清掃活動が十分におこなわれていない。
→清掃活動に関しては、教育課程にも関わってくるので教務、管理部と検討していきたい。

<来年度へ向けての改善点等>

上記の課題はあるが、コロナ禍でも生徒会執行部の月1集会やSDGsを絡めた活動など、新しい取り組みもできている。次年度も、コロナ禍で学校行事に制限がかかることが予想されるが、できることを考えながら、特別活動指導部としてチャレンジしていきたい。

5 管理部(施設管理・環境整備)について

<令和3年度学校評価の結果から>

- ・掲示物が学級によって乱れているので、改善が必要である
⇒委員会などを通じて、点検を行いより良い教室環境を目指す。
- ・清掃のあり方を検討してほしい
⇒来年度から昼清掃で一斉清掃を行うので、教育的意義をもって清掃に取り組みたい。

6 公開研究について

<令和3年度学校評価の結果から>

4-16 研究・研修活動について

本年度 A・B 81.3%(昨年度 68.4%)12.9%up C・D・E 18.7%(昨年度31.6%)12.9%down

4-17 授業研究・指導力の向上、研究・研修の充実

本年度 A・B 84.7%(昨年度 81.6%)3.1%up C・D・E 15.3%(昨年度 18.4%)3.1%down

研究・研修活動、授業研究について昨年度行えなかった学校訪問や夏季のオンライン職員研修もあり、昨年度に比べて向上した。来年度の本発表を意識した実践の積み重ねを今後も継続させながら、どのような発表にするのか、本発表の全体像を明確にして行っていきたい。

<来年度へ向けての改善点等>

① 総合的な学習の時間の見直し

研究主題「グローバル社会で求められる資質の育成」に基づいた総合的な学習の時間の計画表の今年度のまとめを公開研究部で作成する。来年度に向けて、葛飾中学校全体で目指す生徒像と現在の取り組みを見直し、葛飾中基本スタイルの総合的な学習の時間の年間計画表を研究部で作成し、学年で実行していく。

② 各教科指導の見直し

各教科指導で、国際理解教育の理念と新学習指導要領に基づいた年間指導計画、指導の在り方を改善しながら、実践の積み重ねをする。

7 GIGA スクール構想について

<令和3年度学校評価の結果から>

生徒、保護者ともに配付された一人一台端末をもっと活用すべきという意見が見られた。今年度は、スタートの年度と位置付けており、教員、生徒ともに徐々に活用できるようになってきていると感じる。

しかし、授業での利用頻度については教科の特性もあり、すべての教科で活用できているわけではない。授業の効果を考えた際に、有効なひとつの手段として活用できるスキルを身に付けていく必要がある。

スタートしたばかりではあるが、徐々に運用していくという学校の方針としては、今年度はとても充実した1年であったと考えられる。また、「校務の情報化」も促進し、遅刻・欠席連絡や職員の検温表のデジタル化、会議等でデジタルの資料を扱う機会が多くなってきた。生徒へのアンケートもPCでできるようになったり、オンライン設備が整ったおかげで、月一のオンライン朝の会が実施できるようになったりなど、今年度において、できるようになったことはかなり多い。学校評価での意見として挙がっていた「生徒、保護者ともに配付された一人一台端末をもっと活用すべき」は、授業での活用を指しているものと思われることから、今後、各教科、領域において積極的に活用していくことが必要である。

<来年度へ向けての改善点等>

学級や授業でのクラスルームの管理が煩雑になってしまったため、来年度は、できる限り少ないクラスルームで運営し、生徒が混乱しないように配慮することが求められる。

各学年において、授業中の不適切な使用が見られるため、生徒指導部と連携して、対応できるよう、指導内容を精査する必要がある。また、今年度は、学級閉鎖になったクラスがいくつかあったため、その学級をモデルとして、オンラインでの朝の会や授業などモデルを構築していく必要がある。

最後に一番大きな課題として、オンライン配信の準備が必要である。2月に学校共有のアカウントがようやく配付されたので、これを利用してやむを得ない理由で登校する生徒の所属する学級の様子をオンライン配信することができる。ただ、配慮を要することもあるため、実現可能ではあるものの慎重に準備を進める必要がある。

8 学校評議員の方々より(学校関係者評価)

- ・保護者、生徒ともに評価が A および B に集中している点から葛飾中での学校生活は大変良好とされます。ひとえに校長先生をはじめ諸先生方がご尽力くださっているお陰です。本当にいつもありがとうございます
- ・教育に熱心に取り組んでくださっている様子が子どもたちの楽しくわかりやすいへ繋がっていることがうかがえます。
- ・保護者 No.7 の基礎学力を身につけるに関しては、E の不安に思う保護者の方が少しいらっしゃるのが気になりました。
- ・共働き世帯が多い中、保護者と生徒のコミュニケーションが良くとれていることは素晴らしいと思います。ただ、授業がわかりやすい A 評価が保護者と生徒で開きがあるので授業や No.12 家庭学習についてもご家庭で話す機会が増えると良いのではないかと思います。
- ・コロナ対策は素晴らしいです。自分の体は自分で守る意味でも知識はあった方が本人も安心かと思えます。
- ・この状況が一日でも早く終息へ向かいますことと、皆様のご健康をお祈り申し上げます。
- ・保護者用では、No.17 の「学校休業中の連絡を適切に行っている」という項目がとりわけ高く、コロナ

禍において目まぐるしく変化する対応が求められる中での、学校のご努力がうかがえました。

- ・生徒用では、No.1～5の数値が高いことで、学校の雰囲気が高く生徒が安心して通学されていることが推察されました。
- ・No.13の「学校が楽しく、友達がいますか」という最も重要な項目やNo.16の数値が非常に高く素晴らしいと思いました。
- ・No.21のコロナ対策をまじめに行っているという生徒の割合が高いことも、生徒さんの心がけはもちろんですが、日頃の学校や家庭でのご指導の賜物と思われます。
- ・気になった点 ①保護者用 No.8、10、12、15 ②生徒用 No.6、15
- ・保護者用全体のアンケートの結果内容を見ると、令和2年度と比較してAのよくあてはまるとBのほぼあてはまるの合計値が、各設問に対して若干低い傾向にあります。この値が実態の値で今後のアンケートの基礎値になると思われます。
- ・保護者用の設問ごとの結果をみると、No.7「学校は、子供たちに基礎学力を身につけさせるための努力をしている。」の評価Aが前回28.2%が今回16%、評価Bも前回54.5%が51.8%と減少している点が気になります。
- ・No.17「学校は、臨時休業中の連絡を適切に行っている。」、No.18「学校は、臨時休業明けの教育課程の変更等、説明や連絡を適切に行っている。」の評価がアップしている点は、時節柄特に評価できる点と思います。
- ・生徒用全体の結果は、比較する資料が手元がないので、過去と比較することは出来ないが、気になった点として、No.1の評価C～Eまで18.2%、No.6の評価C～Eまで27.8%、No.12の評価C～Eまで29.8%、No.13の評価C～Eまで7.5%、No.15の評価C～Eまで40%が特に気になります。設問のNo.15と類似のNo.21が評価A・Bで97.9%と相反する結果となっている。これはコロナ対策の知識はきちんと保有しているが、病気やけが予防や栄養摂取に関する知識等を増やすべきであると思われる。
- ・全体を通して、保護者集計結果は今までの集計と違い、今回はGoogleformsを利用して639世帯からデータを頂いたとのことですので分母を大きくしたアンケート結果は、今までのデータに比べてより実態に即したデータと思われます。今後もこの方式でデータを収集して積み重ねることを切に希望します。
- ・保護者の結果では、No.7の学校は子供たちに基礎学力を身につけさせているための努力をしている。No.8については、コロナ禍の中、仕方がないのではないかと思います。No.10は先生方には見えない部分があると思います。No.19は「公立中学校」に入学させている保護者の考え方の違いだと思います。
- ・生徒の結果では、相対的に生徒が安心して学校生活を楽しく送っているように感じられてとても良いと思いました。
- ・学校評価の集計表を見ての感想ですが、子供たちはコロナ禍にもかかわらず、学校生活を楽しんでいるように見て取れますし、保護者とのコミュニケーションも取れている子が多いように思いました。コロナ対策もきちんと履行されているようで、「さすが葛飾」と思いました。

ですが、進路や学力等の悩み相談にのってもらえないと感じている子が多いように見られます。これは、保護者側の集計結果からも同様に、学力、いじめ、生活指導に対して不安に思うとの回答が多いことから見られます。

私見としてですが、コロナ対策の余波で授業の進行や厚み、子供とのコミュニケーションの機会が減ってしまったためではないかと思います。また、保護者からの回答で学校や職員の対応には良い印象があるのに、学力の向上や特色ある教育については満足していない方の割合が多いですね。本校の特色である「葛の葉サポーター」が上手く機能していないのか、認知不足なのかは解りませんが、『地域・保護者の方による学習支援体制が充実している』の項目の評価が低いことにも驚いています。これも、葛飾らしい活動があまりできなかったためではないかと感じています。

総括しますと、概ね学校運営は良い感じで推移していると思われます。ただ、コミュニケーション不足によると思われる不満の蓄積が見受けられますので、まずは先生と生徒の距離を縮められるような行事や授業形態を検討されてはいかがかと愚考しました。

○全体、その他

昨年度までは、各クラス4名を無作為に抽出しての学校評価であったが、今年度はグーグルフォームを活用して、全家庭へのアンケートを実施することができた。このことによって、これまでのデータ以上に信頼性のあるデータを集めることができた。

評価項目ほぼ全てにおいて80%以上の高い評価は、学校(教職員)の取り組みが保護者に指示されていると理解できた。低評価については、改善を図る。

また、生徒へのアンケートも全校生徒に実施することが、学習用端末からグーグルフォームでの回答にしたことで、職員の集約作業もなくなった。

来年度も引き続き同様に全家庭・全生徒からのアンケートを実施して、今年度との比較がさらに信頼の置けるデータとして活用し、よりよい学校を目指したい。

○保護者地域との絆

保護者の皆様には、学校評価の取り組みに協力いただきましてありがとうございました。上記の通り、学校評議員の皆様からも貴重なご意見をいただきました。学校独自で頑張り続けるべき点を真摯に受け止めながらも、保護者や地域の方々の協力なくしては立ちゆかないことも多岐に及びます。学校は、あらゆる行事を始め教育活動のすべてに、学年の枠にとらわれず教職員一丸となってひとつひとつ取り組んでいきます。

「学校は子供たちのためにある」を合い言葉に、「子供たちのための環境」を整えていきたいと思っておりますので、保護者や地域の皆さんと学校の絆がより強いものになりますよう、ご理解と協力をお願いいたします。